

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年11月20日

【評価実施概要】

事業所番号	4078100080
法人名	有限会社 里心
事業所名	グループホーム 里心
所在地 (電話番号)	福岡県八女郡黒木町大字木屋6337-1 (電話) 0943-45-0639

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成 20年 10月 8日	評価確定日	平成 21年 1月 27日

【情報提供票より】(平成 20年 9月 24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 10人, 非常勤 3人, 常勤換算	6.5人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木 造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,600 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(66,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,300 円

(4) 利用者の概要(平成 20年 9月 24日現在)

利用者人数	16 名	男性	3 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 82.2 歳	最低	69 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	今村循環器科内科
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム里心は、山の自然に恵まれたのどかな環境の中に位置しており、高齢者が集えるような場を作りたいという代表の想いで建てられたホームである。グループホームが地域密着と言われ始める前より、地域を意識されており、3つの理念の中に「私たちは、地域・社会に有意義な、責任あるグループホーム里心として行動するスタッフである」と掲げられている。開設から7年、地域に根付いた施設作りを目指して積極的に取り組んでこられた。その信念を職員も理解しており、日々の業務のなかで常に意識をしながら、“まごころケア”をモットーに日々ご利用者の支援を行っている。農業地帯ということもあり、地域の住人より農作物を頂いたり、以前の被害時には、地域の婦人会が炊き出しを行い食事の世話をしてくれ、地域の協体制度も整っている。ご利用者同士の関係も良く、それぞれが自分の役割を認識されており、それは職員側が提示したものではなく、自然と生活の中で役割ができていったとの事で、ご利用者が他のご利用者の食事や洗面介助を行っている場面も見られており、ご利用者主体のケアの実践が行われているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価以降、①トイレのドアがカーテンとなっているため、ご利用者のプライバシーに配慮したケアの見直しを行った。②ご家族参加による運営推進会議の実施。③ケアプランの作成にあたり、ミーティングにご家族も参加していただいた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の意義をホーム長が職員に説明を行い、各職員に項目を分担して記入してもらい結果を1つにまとめた。今回の自己評価で、“日頃どういう所に注意したらよいか”を職員全員で考えさせられる場となり、日々取り組んでいるケアの再確認をすることにつながった。また、代表自らも自己評価票を記入され、運営推進会議において、前回の外部評価の結果や今回の自己評価の結果を報告されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ご家族・町役場の福祉課課長や社会福祉協議会の職員・区長・分館長・老人クラブの方・民生委員の方・地区の評議委員の参加のもと、2~3ヶ月に1回行っている。自己・外部評価の報告や、ホームの現状報告以外に、“地域のお年寄りが気軽に遊びに来てもらえるにはどうしたらいいか”などを相談し、活発な意見交換が行われている。会議の議事録を取り、ケアサービスに活かす努力をされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	近隣のご家族に対しては来訪時、記録を見ていただき、健康状態や暮らしぶりの説明を行っている。2ヶ月に1回、ホーム便りと共に担当者がメッセージを書き送付している。ホームだよりには、お正月の思い出や若い頃の様子をご利用者にインタビューした内容、行事のときの写真が掲載されている。年3回、家族会が行われており、家族会で運営に関するご意見を伺ったり、アンケートを取り、その内容を職員ミーティングで話し合っている。ホームの玄関には意見箱も設置されている。運営推進会議においても、ご家族からご意見をいただき、運営に反映させるよう取り組みが行われている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームが建てられているところは、代表の地元ということもあり、道路愛護等の掃除や、地域にある納骨堂を掃除したりと地域住民との交流は続けられている。代表が、地域にある特養施設の施設長と交流関係を築いており、その関係から、施設の歌謡ショーへ招待して頂く等、地域周辺の施設との関係作りも積極的に行われている。また、地域のお祭りや敬老会への参加、小学校の運動会見学なども行われている。年一回の一大イベントであるホーム主催の夏祭りには、地域の方が多数参加され、夜遅くまでお祭り騒ぎが賑やかに行われている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームが地域密着と言われ始める前から地域密着を意識して代表が作られた理念である。「私たちは、地域・社会に有意義な、責任あるグループホーム里心として行動するスタッフである」という理念を「入居者の立場に立つスタッフ」、「家族の方々からも安心していただけるスタッフ」と共に掲げている。代表の地元ということもあるが、以前にも増して地域との関係作りにも力を入れている。地域密着型と言われ始めてからは、町のイベント参加にもホームとして参加したり、協力をすることを心がけている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の朝礼時に職員全員で理念を読み上げ、意思の再統一を図っている。ご利用者の立場に立って考え、ご利用者の目線の高さに合わせ、顔を見ながら表情の変化など観察して、ご利用者の思いを汲み取りながらケアを行っている。前回の外部評価以降、ホーム主催の夏祭りなどを通して地域との関係もさらに深まり、地域の方が野菜を差し入れて下さったり、ホーム主催の夏祭りに地域の方が多数参加されるなど、地域密着型サービスとして日々取り組みが行われている。	○	職員の募集は継続して行われているがなかなか集まらず、人員に余裕がない状況の中でケアが行われているため、ご利用者の立場に立ったケアが充分に行われているとは言えないとホーム長は感じておられる。業務内容の見直しを検討されるなど、精神的なゆとりを持って職員がケアに当たれるよう、更なる取り組みに期待していきたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	代表の地元ということもあり、道路愛護等の掃除や、地域にある納骨堂を掃除したりと地域住民との交流が続いている。代表が、地域にある特養施設の施設長と交流関係を築いており、その関係から、地域にある特養施設への歌謡ショーへ招待して頂く等、地域周辺の施設との関係作りも積極的に行われている。また、地域のお祭りや敬老会への参加、小学校の運動会見学なども行われている。年一回の一大イベントであるホーム主催の夏祭りには、地域の方が多数参加され、夜遅くまでお祭り騒ぎが賑やかに行われている。	○	職員体制に余裕が無い状況の中にあっても、地域の方々との交流は、徐々に拡がりを見せている。可能な限り地域の行事に参加していきたいという思いは強く、新たな情報を運営推進会議等を活用しながら、情報収集を続け更に取り組んでいきたいとホーム長は考えられている。今後の更なる取り組みに期待していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の外部評価を受けるにあたってホーム長が職員に説明を行い、各職員に項目を分担して記入してもらい結果を1つにまとめられた。今回の自己評価で、“日頃どういう所に注意したらよいか”を職員全員で考えさせられる場となり、日々取り組んでいるケアの再確認することにつながった。また、代表自らも自己評価票を記入され、運営推進会議において、前回の外部評価の結果や今回の自己評価の結果を報告されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族・町役場の福祉課課長や社会福祉協議会の職員・区長・分館長・老人クラブの方・民生委員の方・地区の評議委員の参加のもと、2～3ヶ月に1回行っている。外部・自己評価結果の報告や、ホームの現状報告以外に、“地域のお年寄りが気軽に遊びに来てもらえるにはどうしたらいいか”などを相談し、活発な意見交換が行われている。会議の議事録を取り、ケアサービスに活かしているが、ご利用者の参加までには至っていない。	○	運営推進会議に、ご利用者は参加されていない。制度上、ご利用者も、会議の参加メンバーの一員に位置づけられており、実際にサービスを利用されているご利用者からご意見を頂くことで、参加者により現状を理解して頂き、課題への解決方法の検討においても、現場に即した話し合いが更に来ていくと思われる。短時間の参加からでも良いと思われ、日々の暮らしぶりをご利用者に話して頂くなど、ご利用者に負担のかからない参加の仕方を検討してみたいかであろうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃より介護保険更新申請時やそれ以外でも町役場に出向き、現在の入居状況等を報告しており、福祉課課長自ら運営推進会議にも参加して頂く等、関係作りに努力されている。2ヶ月に1回“里心だより”も役場に持参されている。ホームの現状を報告したり、ホームの空き状況に対しても、気がかけていただいている。ご利用者のことで担当者に相談すると、担当者がわからない問題にも親身に調べてくださり回答して下さるなど、日頃から相談しやすい関係となっている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在1名のご利用者が、成年後見制度を活用されている。制度に関する外部研修に一部の職員が参加し、パンフレットをホーム内に備えつけている。ご家族に対して説明している方と、まだ説明していない方がおられ、職員全員が制度に関して充分把握出来ているとはいえない。	○	ホームに備え付けられているパンフレット等を活用して、勉強会がされてはいかかであろうか。また、運営推進会議に町役場の職員や社協の方の参加もあり、制度に関する説明をお願いして、職員はもちろん家族や地域の方々にも理解して頂ける機会を設けるなど検討されてはいかかであろうか。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	近隣の家族に対しては来訪時、記録を見せ健康状態や暮らしぶりの説明を行っている。また、金銭管理に関しては月1回、入金・出金の詳細を書面にて報告している。2ヶ月に1回、ホーム便りと共に担当者がメッセージを書き、送付している。またご家族によっては知りたい情報が違う事もあり、個別にも報告を行うようにしている。ホームだよりには、お正月の思い出や若い頃の様子をご利用者にインタビューした内容、行事のときの写真が掲載されている。職員の異動は、聞かれたときに報告するようにしている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年3回、家族会を行っている。家族会で運営に関するご意見を伺ったり、アンケートを取り、その内容を職員ミーティングで話し合いを行っている。ホームの玄関には、意見箱も設置されている。運営推進会議においても、ご家族からご意見をいただき、運営に反映させるよう取り組みが行われている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の休みの希望に応じたり、職員親睦の場を設けているが、通勤距離の問題や勉強の為に退職する職員もおり、長く継続しない状況が続いている。人員が減った事で、残った職員に負担がいかないように募集を行ったり、人材派遣会社への依頼も行って見たが、思うように集まらず、行事にも影響が出ている。ご利用者が寂しがらないように、辞めても職員には、できるだけ遊びに来て頂くように話している。また、天気の良い日には日光浴にお連れしたり、気を紛らす為の支援をできる限り行っている。	○	退職後の人員補充が難しく人員に余裕がなく、日光浴は行われているが、外出支援が充分できていない。ご利用者と共に、以前のように外出できるよう、今後も人員の募集は引き続き行っていくとの事で、人員体制が整い余裕を持ったケアが行われることを期待したい。
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては、年齢・性別で制限はしていない。手芸・ギター・料理・イベントの盛り上げ役など、職員の趣味・得意なことを、ケアの場面で活かしてもらっている。現在も資格取得を目指している職員、また、ボランティア活動に参加している職員もおり、人員体制が厳しい状況にあるも出来る限り勤務の調整を行い、事業所としても積極的に後押しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	代表がミーティング内でご利用者の権利についての話をしたり、外部研修に職員が参加したりしている。また、事例等課題を利用し、職員全員で検討を行っている。日々の現場内で気になった場面では、その場で伝えるようにしており、大きな問題があった場合はその後話し合いを設けている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の実践の中で管理者やホーム長が指導者となって教えている。外部の研修に関しては、現在職員数が厳しい状況もあるが、希望をきいたり代表から個々の能力に応じた研修への参加も勧めており、勤務調整を行いながら参加に向けての対応を行っている。また、資格等、個人の希望に応じて勉強をしたいという希望に対しても、出来るだけ勤務調整を行っている。定期的な内部研修は行われていないが、県や市のグループホーム協議会主催の研修会には可能な限り参加している。	○	職員へ負担を掛けたくないとのホーム長の思いがあり、積極的なスキルアップへの呼びかけは行われていない。現在は、その時その時の研修に対し希望を尋ねたり、レベルに合わせ、代表・ホーム長より外部研修への参加を促している。今後の目標を職員と共に話し合い、職員毎の段階に応じた育成計画を作成していけることを期待したい。職員の退職理由の1つに、大きな施設で学びたいという職員についても、本人のやる気1つで学べることは多く、場所だけの問題ではないことを充分話し合い、内部研修の確立等を検討して見られてはどうか。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近郊の施設との研修会には職員の勤務状況をみながら、積極的に参加を行っている。また、近隣にグループホームが3つあり、1つのホームとは、視察や交流を積極的に行っている。3ヶ月に1回は、近郊の施設で行われている歌謡ショーに招待され、歌が好きなご利用者をお連れするなどの関係作りができています。	○	黒木町で最初にできたグループホームとして、今後、他のグループホームとも積極的に交流を持ち、ネットワーク作りをしたいとホーム長は考えられている。今後の更なる取り組みに期待していきたい。

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム長が入居前に情報収集のために自宅等を訪問し、ご本人との会話を通して顔馴染みの関係が作れるよう工夫されている。また、ご本人にホームを見学して頂き、ホームの雰囲気を感じて頂いている。ご本人が納得されていない場合は、ご本人の意志を尊重して、入居時期の検討をご家族と行っている。入居後も、寂しさを感じさせないように、職員が話しかけたり、職員が新しく入居されたご利用者にインタビュー形式で話しかけ、他のご利用者で早く馴染めるように、交流の場を設けるなどの配慮もされている。		
----	----	--	--	--	--

2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜の下ごしらえやおやつ作り、裁縫、生活の知恵など、昔ながらの方法を教えている。女性ご利用者が職員に代わって、男性ご利用者のお世話をされている姿が印象的である。職員が風邪をひくと“無理しなさんなよ”“早う、ようならんね”など優しい言葉をかけて下さったりする。職員が仕事を終わり帰る時に、“お疲れさん、明日は何時にくると?”と声をかけて下さることが職員の励みになっている。		
----	----	--	---	--	--

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が、ご利用者・ご家族から、ホームでどのように暮らしていくことを望んでいるかの意向を伺うと共に、以前行っていた事や好きだった事等、情報収集をしている。担当制にして、入居後もご利用者の意向を担当者が把握すると共に、新たな気づきを計画作成担当者に伝え計画に反映させている。明確に意向を表明していただけないご利用者についても、ご利用者の行動や表情から思いを汲み取るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者にそれぞれ担当者をつけ、ご利用者のアイデアや希望を聞き取りし、計画作成担当者が計画に盛り込んでいる。また、ご家族や主治医、看護師からも意見を頂き計画を作成している。ご利用者の視点に立ち、表現の面でも、わかりやすい表現となっている。課題・目標には、「地域で暮らす」という視点が盛り込まれている方と盛り込まれていない方があり、現在行っているケアの一部は計画に記載されていない。	○	地域行事への参加や地域の方々との交流など、地域との関わりの内容までは、プランの中に反映されてない。日々のケアで実際に行われているケアについても一部の記載となっている。地域でその人らしく暮らし続けるための個別の介護計画ということに視点を置き、計画に盛り込まれると共に、全職員のケアの方法・留意点を統一するためにも、「個別介護手順書」の作成を検討されてみてはいかがでしょうか。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的にはケアプラン見直しは、3ヶ月に1回行っているが、状態変化が見られた場合はその都度職員と話し合いを行い、プランの検討を行っている。また、日々の申し送りの中でも、状態の変化については常に伝えており観察を行っている。ご家族も含めたケアプラン見直しのカンファレンスを行っているが、ご意見は少なく“おまかせします”と言われることが多い。見直しについてご利用者の希望が聞き取れている方と、聞き取れていない方がおられる。	○	見直しについて、ご家族に現状の報告を月1回は行い、新たな気づきや意向の確認など行っているが、ご家族からの意見は少ない現状である。一部のご利用者からは意見を聞き取りできておらず、ご利用者がホームにおいてその人らしく暮らし続けるためのプランであることをご家族に再度説明すると共に、ご利用者・ご家族にどのように質問したら、より多く意見を引き出すことができるのかを検討されてみてはいかがでしょうか。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者が入居前より行きつけの床屋さんや、ご利用者の希望で図書館や温泉への外出支援が行われている。ご家族に代わっての通院介助なども行われている。ご利用者が退居されるときに、在宅介護支援センターと連絡を取り合い、在宅生活に向け、スムーズに移行できるような支援も行われている。ご利用者が外泊される時に、家族だけでの介護は困難ということで、自費でのヘルパー利用を希望され、町の担当者に相談して自宅近くの事業所を紹介するなど、必要に応じた柔軟な対応が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関で受療して頂いているが、ご利用者・ご家族の同意と納得の上であり強要はしていない。施設側より協力医療機関にお願ひに行き、2週間に1回の定期往診をして頂いており、緊急時の24時間対応も可能となっている。協力医療機関の往診やその他の専門医を受診時、職員が主に付き添い医師との関係作りも行っている。受診の結果はその都度ご家族に報告を行い、また、専門医に家族が付き添った場合も必ず結果を確認しており、状況を把握している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りについてはご家族にも早い段階から希望をきいており、ホーム開設から5名の看取りが行われた。ご本人からも「お世話にならにゃん」、「お世話になるけん、安心しとってよかな」等の言葉も聴かれており、自然に会話の中で本人の意向の確認ができる雰囲気作りも行えている。重度化した場合は毎日のご家族や医師と直接話し合いを行っており、方針の共有を行っている。職員間でも意志の統一を図り、最後まで精一杯お世話をするよう取り組みが行われている。	○	これまでに5名の方の見取りが行われてきたが、ご利用者の状態が悪化してくると思うように介護できず、夜間は特に常時付き添えない場合もあり一部の職員に不安が感じられている。ご家族にもその状況を説明して、少しでも協力を得られないか話し合いをされてみてはいかがであろうか。職員の不安の軽減を少しでも軽くできることを期待していきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホーム長が、個人情報に関する記録物は、原則外部に持ち出さないように指導を行っている。また、全体ミーティングで、取り扱いについての注意事項の説明も行っている。普段の言葉遣いや対応も、職員同士が常に意識し合いお互いに注意を払っているが、プライバシーに関する、ご利用者への言葉かけが指導的に感じられるときがあり、代表やホーム長がミーティングの中でも話を行うようにしている。人員に余裕がなく、介護日誌をご利用者の目に付く場所に置いたままになっていることがある。	○	プライバシーの侵害にあたる言葉かけがどういふものか、また、介護日誌を目につかない場所に置かない工夫など、再度ミーティングで検討して見られてはいかがであろうか。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の日課としていることにも、強制的には促したりせず、ご利用者が予定外の外出などを希望され、対応がすぐに出来ないときには、ご利用者に説明して日程の変更など納得を得よう努めている。入浴・食事の時間も特に定めているわけではなく、ご利用者のリズムに合わせている。言葉で伝えられないご利用者に対しては表情等を観察しながら、対応を行ったり、“一緒にしてみませんか”と声をかけ、ご利用者同士で仲良く過ごしてもらえるよう対応している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者に希望を聞きながら献立を立てたり、畑でとれた野菜や近隣の方から頂いた野菜を利用し何が作れるかを一緒に検討したり、買い物も一緒に出かけている。料理の下ごしらえや盛り付け、配膳・下膳、片付けなど、個々の出来る範囲でお手伝いをして頂きながら、味付けへの意見も伺っている。食事の嗜好も把握しており、食べられない人には代替食を準備して対応している。だご汁や手作りこんにやくでの料理など郷土食を取り入れたり、じゃがいも・里芋まんじゅうなど手作りのおやつをご利用者と共に楽しみながら作られている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日置きの入浴を予定しているが、お風呂は毎日沸かしている状態で、「入りたい」との希望があれば対応も可能である。介助浴が多く、ご利用者個人のペースを大切に毎日本人に意思を確認しながら、湯の温度や時間の配慮をしている。また、入浴剤を使用して香りを楽しんで頂いたり、季節に合わせて、ゆず湯や菖蒲湯等も行われている。ご利用者が温泉に行きたいと言われるときには、職員も一緒に温泉に入るなどの対応もされている。感染予防や清潔保持のため、毎回お湯は個々に入れ替えられている。	○	現在、車椅子利用中で浴槽に入れて差し上げることが難しいご利用者を、“なんとか浴槽に入れて差し上げたい”と職員は考えている。代表も同じ思いでおられ、車椅子のまま入れるように浴槽の改造を検討中である。今後の取り組みに期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜の下ごしらえ・食器洗い・洗濯物干しやたたみ・掃除・裁縫・日めくりカレンダーをめくる係り等、ご利用者自らが役割を決めて行われている。ご利用者が隣の方の食事のお世話をされたり、男性ご利用者の歯磨きの準備をお手伝いされる場面もみられる。職員の人員体制の関係から充分とは言えないが、少人数でのドライブや地域行事への参加、他施設の歌謡ショーにお出かけする等の支援も行われている。天気の良い日は、ホームの庭で日光浴をされ楽しそうな話し声や笑い声が聞かれている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員に声をかけてご利用者自ら自由にホーム前で日光浴したり、ホーム周辺の散歩などされている。また、地域の敬老会や行事・墓参り・農作業等、職員の体制上すぐに対応出来ないこともあるが、出来る限り希望に添って対応を行うようにしている。入居前から行きつけとしていた床屋さんへの外出支援も行われている。	○	職員の人員体制の問題から、以前に比べドライブ等の外出回数が減っている状況にある。以前のように自由にいきたいときに外出できるような体制に戻したいとの職員全員の思いがあり、少しでも早く職員の増員ができることと、現在の人員の中でもできる限りの取り組みが行われていくことなど、あきらめないケアへの取り組みに期待していきたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	6:30~19:00までの間は鍵を掛けずに自由に出入りできる状態で、ご利用者が散歩に出かけていく姿も多く見られており、活動的に動かれている様子が伺える。また、職員もご利用者の行動をきちんと把握しており、ご利用者の表情から外へ出ようとする時には一緒に行動を共にして散歩に出かけている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、消防署の指導のもと避難訓練を利用者と共に行っている。ホーム長自らも地元の消防団に加入しており、消防団との関係づくりも行っており、地域と共に災害に取り組む協体制が整えられている。災害に備えた備品として、大きな冷蔵庫を利用し野菜を貯蔵している。水は井戸水で電気は自家発電でき、コンロやかまども装備されている。また、非常災害時には、婦人会による炊き出しがあり、地域住民からも農作物を頂けるような関係づくりもできている。	○	ホーム長が地元の消防団に入っている関係から、避難訓練は年1回では不十分と考えられている。年2回は定期的に行っていきたいと考えられており、今後の取り組みに期待していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専任の調理担当者が献立を考え調理されている。個別に食事・水分摂取量を把握し必要に応じ記録に残している。各ご利用者の嗜好も把握しており、希望に応じて代替食等での対応も行っている。また各ご利用者の状況に応じ、調理方法や、食材、食器類の検討も行っている。医師の指示で減塩食にしたり、定期的に血液検査も行い、また体重測定を行いながら体重の増減を確認している。食が進まないご利用者には、おにぎりにしたり、好まれるものを提供している。	○	栄養バランスを考えて食事を提供されているが、カロリーまでは計算されていない。血液検査や体重測定を定期的に行われているためカロリーの過不足はないと思われるが、1人ひとりの必要摂取エネルギーに合わせた食事の提供ができていないか、メニュー表の確認等を専門家である栄養士等をお願いしてみたいかだろうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・リビングには季節にあった飾りつけや生け花を飾り、季節感を感じていただいている。リビングにはソファを多く備え付け、ご利用者同士の交流の場となるように工夫されている。リビングのすぐ近くにトイレがあるため、日頃から掃除を徹底し、臭いがこもらないよう芳香剤・木炭が置かれ、こまめに換気も行われている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇やたんす・いす・ソファ等、個々の馴染みの物をご家族、ご利用者と話し合い持ち込んでいただいている。居室には、個人の写真や季節に合った飾りつけも職員が工夫して行っている。また、カーテンもそれぞれの好みに合った色で購入し、入り口には暖簾をかけ、居心地よい雰囲気をつくりだしている。花が好きな方には気持ちが和むよう、造花を飾ったりしている。		